

平成 30 年度 第 1 回伊豆市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成 30 年 7 月 26 日（木） 10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：伊豆市役所本庁別館 2 階 大会議室

委 員：18 名（うち代理 4 名）、欠席 2 名

機関・団体・役職名等	氏名	役職
伊豆市長	菊地 豊	会長
総合政策部長	田村 英樹	副会長
国土交通省中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官	久保田 素広	委員
静岡県交通基盤部都市局地域交通課長	大倉 篤	委員
静岡県タクシー協会 賀茂・修善寺副支部長	寺山 冗二	委員
伊豆箱根バス株式会社 営業部次長	津田 豪	委員
株式会社新東海バス 代表取締役	(代)岡田 圭祐	委員
静岡県沼津土木事務所 技監兼修善寺支所長	海野 雅之	委員
大仁警察署 交通課長	神尾 健司	委員
伊豆箱根鉄道株式会社 執行役員鉄道部長	井村 眞一	委員
株式会社伊豆中央自動車 代表取締役	佐藤 諭	委員
建設部長	山田 博治	委員
伊豆市区長会長	(代)佐藤 喜好	委員
伊豆市 P T A 連絡協議会長	梅原 一仁	委員
伊豆市老人クラブ連合会長	鈴木 實	委員
健康福祉部長	村井 克代	委員
産業部長	(代)鈴木 利明	委員
教育部長	(代)小塚 剛	委員
建設部都市計画課長	井上 貴宏	
東海自動車株式会社 バス営業部 部付課長	和泉澤 貴治	
伊豆箱根バス株式会社 営業部乗合課 係長	岩崎 勝一	
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	アドバイザー
総合戦略課長	佐藤 達義	事務局
総合戦略課 主査	高田 泰宏	事務局
総合戦略課 主任	室住 実希	事務局
総合戦略課 主任	下村 亮介	事務局

資料：①次第、②席次表、③委員名簿、④資料 1：伊豆市地域公共交通会議の役割について ⑤補足資料 1：活発で良い議論ができる会議のために ⑥資料 2：伊豆市における公共交通の現状 ⑦資料 3：伊豆市生活交通ネットワーク形成計画 推進事業について ⑧補足資料 2：伊豆市生活交通ネットワーク形成計画 概要版 ⑨資料 4：天城湯ヶ島地区における予約型乗合タクシー実証運行実施状況報告及び今後の取組について ⑩資料 5：中伊豆地区における予約型乗合タクシー実証運行 運行計画（案） ⑪補足資料 3：中伊豆地区における地域交通の実証運行について（省略：伊豆市公共交通総合時刻表、順天堂直通バス社会実験チラシ）

1. 開 会

2. 挨拶（市長）

皆さんおはようございます。本日は連日の猛暑の中お集まりいただきありがとうございます。また、明後日の午後に台風が伊豆半島を直撃しそうな予報となっておりますが、ぜひお気を付けいただきたいと思います。

さて先般、清水港から土肥港までを結ぶ駿河湾フェリーが、本年度末をもって廃止という報道がありました。この会議で扱っている訳ではありませんが、公共交通の在り方として大きな教訓であろうと思っています。実は5年程前にも大きな危機があり、その時に静岡県、静岡市、当市としっかり対応しなければいけなかったのですが、大変残念ながらその時点では、我々、伊豆半島西海岸側の危機感が非常に薄かったと私は感じております。その後もずっと、このままではいつか本当に廃止になるのではないかと危惧しておりましたが、結局、廃止が公表するまで大きな危機感を持たなかったという事だろうと思います。そして今かなり慌てている状況であって、まさに公共交通は住民主体であれ、流通主体であれ、観光主体であれ、いずれにしても「自分達が必要だと思うのであれば自分たちでしっかり使って残さなければ残らない」ということを新たな教訓として、しかも強い衝撃をもって今、受け止めているところです。

他方、今、市の議論の中で、公共交通というのは本当にB/C、収益だけで維持しているものなのか維持すべきものなのか、公共交通というのはそれでいいのかという議論がある事は事実です。ただその場合にも、税金を入れて支援する場合、高い公益性がなければ、いつまでも税金で補てんという訳にはやはりいかないのだと思います。その根底には、地元住民の「私達には必要なんだ」という熱意なしには維持できないだろうと思っています。

したがって引き続き、伊豆箱根鉄道様にも頑張ってくださいますが、基本的に伊豆市としては東海バス様、伊豆箱根バス様をどのように維持していただくかという事と、それから今、天城湯ヶ島地区で実証運行をしているデマンド交通、今年同じようなやり方で中伊豆地区にも入れて行きますが、行政としては一所懸命、市民への啓発も含めて努力をさせていただき、それでも使われない場合にはどこかで断念することもあるという、ここはドライに考えなければいけないだろうと思っています。当然、バス会社2社もビジネスでやっている訳ですからどこかで営業判断もあるかとは思いますが、そのバランスをしっかりと図りながら、その為のこの会議ですので、運営事業者の立場と使う立場の皆様の考え方をここでしっかりと相互調整をして、実践的で合理的で適切な伊豆市内の公共交通を維持して参りたいと思っています。

本日も引き続き岡村先生には大変お世話になりますが、よろしくお願いします。

3. 委嘱状交付（省略）

<会議の成立報告・議事録の公開>

4. 議事

議事内容

（1）地域公共交通会議の役割・市の公共交通の現状について（資料1、資料2）

資料1・資料2について事務局より説明。

【質疑応答】

委 員：資料2の2ページ、市単独補助路線の2つめについて、平均乗車密度が0.0となっているが、これは正しい数値か。

事務局：普段は小学生が乗っているが、乗降調査の際はたまたま乗車がなかったため、平均乗車密度が0.0となった。

伊豆箱根バス：この場をお借りして発言させていただきます。伊豆箱根バスの中伊豆線は、国庫・県の補助を受けながら運行しているが、現在、年間 1,300 万円の欠損が生じ、10 年以上同様の状況である。その中で民間事業者として、この欠損が続く状況では運行は今後困難と判断している。一方で、地域公共交通の維持も重要と認識しているため、今後、中伊豆地区の公共交通をどのように維持していくかについて、県・市と一緒に協議を進めていきたいと考えている。

会 長：資料 2 の 3 ページ、②県過疎の路線の利用者数が昨年度急に減っているが、理由がわかるか。

伊豆箱根バス：当該路線は朝の便となるが、以前より遅れが発生しており、遅れの解消に向け、平成 29 年度にダイヤ改正を行っている。そのため、昨年度までの利用者が他の便に移ったため、この路線の利用者数が減少した。

会 長：市民を代表し、区長会長から意見があればお願いしたい。

委 員：人口が減っている中で利用者が少ないのは事実。しかしどうしても公共交通が必要という需要もある。伊豆箱根バスが運行している筏場地区、東海バスが運行している冷川地区は、八幡までの移動のニーズが多いと認識している。八幡にはスーパーや銀行・病院・支所・学校など施設が全て揃っている。利用者は少なくとも何とか維持してほしいというのが、市民としての思いである。

会 長：中伊豆地区については、中伊豆温泉病院が 5 年後に県道沿いに移転する予定になっている。現在、県道沿いの路線と中伊豆温泉病院に向かう路線があるが、向かう方向が一方方向となる。伊豆箱根バス様の中伊豆線の件も短期的にどうするかと中長期的にどうするか少し方針が変わる場合もある。これらを視野に入れながら協議して行きたいと思う。

会 長：伊豆市はここ 10 年、大きく形を変えてきたので色々混乱があることは事実。中伊豆地区でも保育園や小学校の集約など、その中で公共交通の需要の増減が大きくあり過渡期にあると考えている。運営する交通事業者の方には、今までになかったご負担をおかけしているが、繰り返しになるが短期的な解決策と中長期的な対策を、しっかりこれから検討させていただければと思う。

(2) 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画推進事業について

①平成 29 年度事業評価・平成 30 年度事業計画について（資料 3）

資料 3 について事務局より説明。

【質疑応答】

静岡県：資料 3 の事業 1、幹線路線の利便性向上について補足説明をさせていただく。この事業は、南伊豆・西伊豆地域公共交通活性化協議会が実施主体となる、修善寺駅から順天堂病院への直通バスの社会実験である。平成 30 年 4 月から運行を開始しており、3 ヶ月たったが、思ったより利用が少ない状況。土肥方面や筏場方面から順天堂病院に移動される方がいらっしゃれば周知いただきたい。また、事業 3 のデジタルサイネージについては、昨年度設置を行ったが、表示内容など今後も改善が必要と考えているため、ご意見があればお願いしたい。

委 員：総合時刻表について、今年度配布予定となっているが、配布場所などわかれば教えていただきたい。

事務局：市民の利用促進と利便性の向上を目的としているため、市民には全戸配布を予定している。この他、公共施設、修善寺駅などでも配布する予定。

委 員：非常に見やすく有用であると思う。多言語対応もしているため、外国人にもわかりやすいと思う。外国人にとっては整理券という文化がないので、利用方法が記載されているのもよいポイントであると思う。

会 長：日赤・市役所方面経由への変更に関して、土肥方面から日赤方面への利用の実

績はまとまっているか。

事務局：まだ実績はまとまっていないが、至急確認する。

②天城湯ヶ島地区地域内交通導入に関する実証運行実施状況について（資料4）

資料4について事務局より説明。

【質疑応答】

アドバイザー：天城湯ヶ島地区の予約型乗合タクシーの実証運行について、経過報告と目標値の設定について事務局から説明したが、ご意見はいかがか。

委員：田沢に住んでおり、無料乗車券をいただいたが、1枚で複数の方が使えるのかなど、使用方法がわかりづらいところがある。高齢者が多いため、詳しい説明をお願いしたい。それから、長野線で学生がどの程度利用しているかお聞きしたい。一般の方が利用する際に、学生が多いため乗車を遠慮いただきたいという説明をされたらしいが現状がどうか。また、長野線は天城小学校が終点となっているが、その回送を利用して病院などへ回るなど検討できないか。

事務局：無料券についてですが、我々の周知が弱かった点は申し訳ないと思う。無料券だけでなく乗合タクシーの使い方など、ご指摘の通り1回の説明会では不十分なので、サロン等があれば引き続き周知を行っていきたい。長野線については、小学生が30名ほど利用している。登校は1便のみだが、下校は2便に分散している状況。通学専用ではないため一般の方も乗車可能だが、朝は30名が乗るため、利用しにくい面があるかもしれない。回送区間の件については、現在、事業者と相談しているところ。

委員：80名の登録ということだが、対象者である高齢者など交通弱者はどの程度いるのか。

事務局：対象としては417名程。

委員：交通事業者として伺いたいが、先程の回送分を実車とし収支がとれなかった場合、地元からの要請ということで、公費を投入ということになるのか。

事務局：長野線は自主運行路線であり、欠損額は市が委託事業の中で支払っている。現在の回送経費も同様なので、仮に実車になった場合も、その経費比較はするが市の委託事業である。

委員：天城湯ヶ島地区での実証運行は、欠損分はどのように補填されているか。

事務局：自主運行路線と同じ枠組みとなり、市の運行する交通である。

委員：その場合の欠損補助をする基準はあるのか。というのも、先ほどご説明があった修善寺駅から順天堂病院の実証運行では赤字分の補てんはなく、事業者が負担している。利用者数は1日数名というところで、利用状況は芳しくない。

事務局：基準というものではなく、計画に基づき行政の取組のスタートとしてとして今回実証運行を行い検証している。利用者の利便性向上のための順天堂直通バス社会実験は、現在ある枠組みの中で出来ることが協議会の協議の前提だったので、線引きやルールがあるということではないと思う。

委員：天城湯ヶ島地区での実証運行については、ご協力いただきありがとうございます。先ほど事務局から無料乗車券の説明があったが、今朝も1名予約が入り、無料乗車券の利用を予定しているが、今までおでかけ天城を利用したことがない方だった。デマンド自体の理解がなかなか難しい様子だが、このような取組があると利用しやすいかと思う。

委員：この実証運行は昨年度から実施しているが、今後、時間帯の変更や目的地の変更など、大がかりな見直しは考えていないのか。

事務局：昨年度半年間実施し4月から半年間延長したが、皆さんからご意見をいただき目的地の使い勝手が悪いということで目的地の商業施設の玄関先への乗入に

変更した。PR不足はあると思うが、地元区長様などに参加いただく地域検討会でも協議しており、地域へ説明しながら引き続きご協力をお願いしていく。

会 長：おでかけ天城は政策的な問題として、支所が南側へ移転し、利便性は変わらないのだが、地域感情としてバス停が遠くなるという声に配慮した。また現実問題として地域の方は80歳を過ぎても軽トラを運転し免許証を放さない。しかし実態はなかなか危険であり、市長としては公共交通を意図的に使っていないか、不便なことは承知の上で政策誘導できるかどうかというところ。下田からの順天堂直通バスもそうだが、2時間バスに乗って順天堂に行くことは強制的にはやっていただきたくないこと。それだけ乗れる方は地元の病院で十分な方であって、本来は無理にバス会社をお願いするものではなく、どうしても症状から順天堂に行かなければならない人達の特定の足を確保したい。そこを間違えると少し議論の方向がおかしくなってしまうと思う。

委 員：天城湯ケ島地区の実証運行については、利用者数が少ない原因について、もう少し深堀すべきと考える。また、地域への説明も必要では。

事務局：PRは引き続き行っていきたいと思う。昨年度の登録者へのアンケート調査では、時間帯や曜日などを含め機能としては良いが、今は必要としておらず、いずれ利用したいという意見が多く見られた。その辺も踏まえ、PRを行っていきたい。

会 長：天城湯ケ島地区は都市機能が集約されていない点がある。実証運行の延長を行ったのも支所の移転が関係している。この後説明のある中伊豆地区は、八幡周辺に機能が集約されているので、両方の結果を見て、全体案を考えていきたいと思う。

アドバイザー：県に伺いたいですが、目標値の設定は率直に言って、高いか低いか、如何か。

静岡県：率直に言って低いと思われる。

アドバイザー：稼働率50%、乗合率1.5あたりが平均値か。

静岡県：概ねそのあたりかと思う。

アドバイザー：まずは本日示した数値を目指し、いずれ必要という方が多くいらっしゃるということだが、外出が難しいような方はそもそも本実験の対象にはならず、現在、軽トラに乗れる方が乗ってほしいという目的がある。この辺りを意識して、今後利用促進を進めていただければと思う。天城湯ケ島地区については引き続き検証を進めていただきたい。

③【協議】中伊豆地区地域内交通導入に関する実証運計画について（資料5）

資料5、補足資料3について事務局より説明。

【質疑応答】

アドバイザー：中伊豆地区については、9月からの実証運行の開始に向け、資料5に示す内容全てが協議事項となる。

委 員：運行区域について、前回の会議で既存路線バス区域以外は実施しないとあるが、このようにそれ以外の地区で実施するのであれば、城なども含めて良いのでは。

事務局：前回もご説明いたしましたが、この実証運行は平成28年度に策定した伊豆市生活交通ネットワーク形成計画に基づく事業であり、既存の路線と枝線の合理化の検証も行うため、まず先行してこのエリアで計画させていただいたところ。ご指摘のとおり、ニューライフや他区域の課題も認識しているが、交通形態の性質や収支状況など、今後どこでも空白地ならやれるということではないと思うので、まずは計画に基づきこのエリアでやってみて検討して行きたい。

委 員：高齢者など、対象人数はどの程度でしょうか。

事務局：対象としては750人程。

委 員：天城湯ケ島地区の状況を踏まえると、周知が重要と考えるがどのように行って

いく予定か。

事務局：今回の実証運行の内容については、昨年度から地域住民と協議を行っている。本会議で了承をいただき次第、チラシの回覧、広報誌への掲載、地域での説明会の実施を予定している。

委員：先程乗合率の話があったが、岐阜では2.5の乗合率があるところもあると聞く。そこは長年実施していて、実証実験の中で数値が上がってこないのは仕方ない事かと思うが、どのように上げて行ったかという地域に何回も足を運んだと聞いている。ぜひ何回も足を運び、広報していただきたい。

アドバイザー：今回の協議事項ではないが、実証運行が終わった後どうするのかということについては、既存路線の運行状況が係わってくる。そういった将来的な問題も念頭においていただいた上で地域には上手な説明をしていただきたい。

【協議結果】 原案どおり承認

5. その他

伊豆箱根鉄道：日頃より伊豆箱根鉄道駿豆線をご利用いただきありがとうございます。当社のPRとなるが、終電ちゃんという取組みを行っており、ポスターも作成している。当社ではご存じのとおり、3月にダイヤ改正を行い、等間隔運行を実施しており、今回の取組みは終電の利用に関する利用促進策となる。駅などに掲示しているので、機会があれば、ご覧いただければと思う。

伊豆中央自動車：交通事業者の皆様には御苦勞いただいているが、裾野市、御殿場市などでは、路線バスの退出が進んでおり、今後は有償運送の検討も進めるべきかと思う。また、出口について、フィーダーの関係で拠点化するなどは考えられないか。

事務局：裾野市では、地域の方で特に意識の高い地区が、有償運送について検討を始めていると聞いている。今後出てくる課題であると思うので参考にさせていただきたい。出口の拠点化については、システムの整理など理論としては検討していきたいと思うが、現実問題として修善寺までの距離の近さや用地の確保などの課題があると認識している。

事務局：第2回は12～1月に開催予定。今年度の取り組みの進捗状況の説明をさせて頂くとともに、次年度の運行に関する協議を行いたい。

6. 閉会 (11時40分)